



©高画質版
©TEXTLESS

「比企谷くん」
「少々お時間をお借りしても？」

俺を呼び止めたのは雪ノ下母、
その言葉は拒絶を許されない
迫力があつた。
そしてドアが開いた。

未知の目的地への途中、
静かな車内は緊張を
もたらし、高級外車の
心地良さをすら感じられ
なかつた。

俺の心を読めるように
「心配いらない、葉山くん
も行ったことあるところだ」

っとそう言った。

個人私有の会館について、
なんとここは雪ノ下母と陽乃と
数少ない人間しか知らない場所、
雪ノ下も知られてないらしい、

はあ、

はあ、

「なるほど…
確かにいい物を持ってる…」
「葉山より負けないぐらいだ…」

上品な着物が崩れ、
雪ノ下母は俺の上を跨いで、
激しく俺のちんぽを
呑み込んでいく。

知りたくない情報を聞かされ、
やっと理解できた。
この人は雪ノ下姉妹に接近しに
きた若い男性をここに連れて
いかわゆる「個人考査」を
行わらしい

「では守秘任務をお願いするね」
彼女は妖艶な表情で
こう言いながら、俺の口に
舌を入れ込んで来た。

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、



